

持続可能なまちづくりへ施策展開



「涼しさ、がにぎわいを創出(横浜市・グランモール公園)」

「ヒートアイランド現象が原因と考えられる都市型集中豪雨が頻発しています。これまでは、土木技術を駆使して雨水対策が行われてきましたが、計画を超える雨量に対応しきれないのが現状です。いま、それらを緩和できるグリーンインフラ技術に注目が集まっています。グリーンインフラとは、自然の力を賢く利用することが特徴で、日本版緑化技術の開発は緊急かつ重要な課題になっています」

一般社団法人グリーンインフラ総研 代表理事
木田 幸男氏に聞く



ー団体設立の経緯は

日本は、世界の脱炭素化を牽引するとともに「環境と成長の好循環」を実現する世界のモデルとなるべく、脱炭素化とSDGs(持続可能な開発目標)を実現するための将来ビジョンを構築している。SDGs達成に向けて、環境・経済・社会の諸課題を同時解決する必要性が高まっている。また、持続可能なまちづくりを実現には、スマートコミュニティ、グリーンインフラなどといった施策をすみやかに展開することが求められている。本特集では、グリーンインフラ総研の木田幸男代表理事、国交省総合政策局の川笠亮環境政策課長に課題と展望を聞いた。

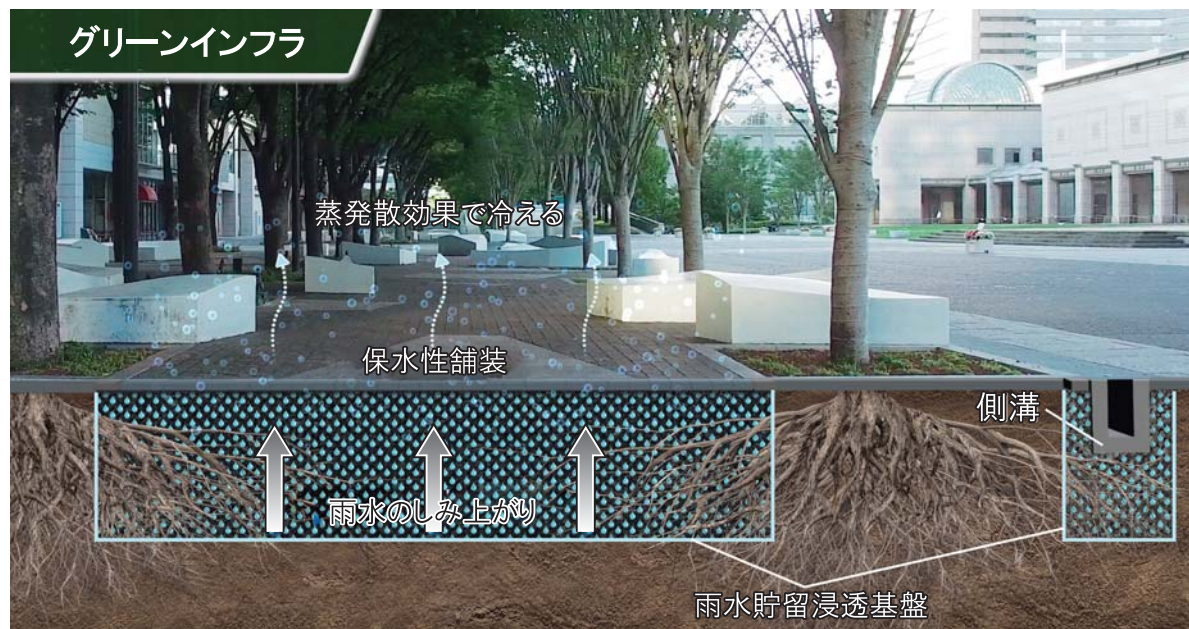
「ボートランド市では、集中豪雨による下水道の洪水氾濫に対応するため、レインガーデンを中心としたグリーンストリートプロジェクトが整備されました。市のインフラ整備プロジェクトである『タイプ・トウ・ザ・ワールド』においては、グリーンインフラを活用することで老朽化した下水道施設の改

ーグリーンインフラにもよる効果は

「自然の持つ多様な機能を利用して、持続可能な社会の実現と経済発展に寄与する。このグリーンインフラは、過密都市・日本において、必ず導入される概念だと痛感しました。それが、グリーンインフラ総研を立ち上げるきっかけとなったのです」

「自然の持つ多様な機能を利用して、持続可能な社会の実現と経済発展に寄与する。このグリーンインフラは、過密都市・日本において、必ず導入される概念だと痛感しました。それが、グリーンインフラ総研を立ち上げるきっかけとなったのです」

自然の持つ多様な機能を利用



雨水により気温低減効果を発揮する

効果実証・定量化が重要

「日本国内の先進事例としては、横浜市のグランモール公園の改修工事の際にグリーンインフラ技術が活用されました。コンクリート再生砕石と腐植を素材とする雨水貯留浸透基盤材は、雨水をその空隙に一時的に溜め、豪雨対策のための貯留浸透槽として活用できます。その後、雨水が基盤を通して地表にしみ上がること、樹木からの蒸散効果とあわせて、気温を低減することができると。その結果、公園を訪れた人が涼しさを実感し、人々のにぎわいを創出することにもつながります」

「ライフスタイルの変化にあわせて街づくりも変化しなければなりません。国内の主要都市では、将来の交通形態に合わせ、街路の車線を減らし、自転車道や遊歩道にリニューアルする計画が進められています。そこでは、良質な植栽基盤を整備すること、歩道下が雨水貯留浸透施設としても機能し、下水道施設への負荷軽減にもつながることが期待されています。埼玉県戸田市では、一部の歩道に雨水貯留浸透基盤材を採用したことで、豪雨が発生した際に溢水しなかったという事例も表れています」

「世界各地では、都市が抱える課題をグリーンインフラにより改善しています。国内でも、日本庭園や棚田、里山などが自然のインフラとして、古くから人々の暮らしに密着しながら防災・減災の役割を担ってきました。それらは従来の土木技術によって整備された単機能の施設ではなく多機能が複合したインフラなのです。今後国や自治体を取り組むを推進するにはグリーンインフラ導入のメリットやデメリットを明確にし、効果を実証・定量化することが重要と考えています。また、海外の手法をそのまま日本に導入するのではなく、日本の事情に合わせた技術開発も必要になってきます」

「そのためには、評価手法を確立することや、予算の確保が重要です。また、行政だけでなく、PPPをはじめとする民間との連携や、他分野との融合も重要になります」

「グリーンインフラには、快適で住みやすい街づくり、地域への環境価値を高め、波及効果を定量化することで経済価値を高め、ひいてはステナブルな街として社会的価値をも発揮できる手法であると考えています」

ー日本国内での普及に向けて



日本の事情にあったグリーンインフラ導入が求められる

防災・減災の処方箋を考える。

答えを見つける会社。

応用地質株式会社

TEL:03-5577-4501(代表) <https://www.oyo.co.jp/>

想像を、チカラに。

人が想像できることは、必ず人が実現できる。
鹿島の都市づくりは、100年先を見つめています。

100年をつくる会社
in 鹿島

フジタと描く、未来のカタチ。

私たちフジタは、お客様や社会が思い描いている未来を想像し、その実現に向けて、共にカタチにしていきたいと思います。土木・建築の枠を超えて、まちづくりをサポーターとして、そこに暮らす人にとって本当に豊かな暮らしの基盤を整えることが私たちの使命だと考えます。大和ハウスグループの一員として、広い視野を持ち、グローバルに展開してきたフジタ。これからも変わらぬ思いで、どうぞご期待ください。

FUJITA

Daiwa House Group

TODA Group Global Vision

“喜び”を実現する企業グループ

戸田建設

www.toda.co.jp

竹中工務店は「最高の作品を世に渡し、社会に貢献する」という経営理念のもと、手がける建築の一つひとつを丹精込めてつくってきました。これからも豊かで安心・安全な「まちづくり」を通してサステナブル社会を実現し、地球の未来につないでいきます。

想いをかたちに 未来へつなぐ

TAKENAKA

同級生への返信は、すこし私を強くした。

メールありがとう。
ごめん、同級生には、行けません。
今、シンガポールにいます。
トムソン線226区。
この国を南北に縦断する地下鉄を、私はつくっています。
本当はみんなに会いたい。
あの街の寒さも、雪も、坂道も、匂いも。
もうすこし、忘れたふりをします。
私のつくこの地下鉄も、きっといつか、誰かの青春を乗せるから。

地図に残る仕事。

大成建設

For a Lively World

Directed by Makoto Shinkai